

令和7年度 小・中学校人権教育研修A 実施要項
(人権教育総論、同和教育、指導方法等)

- 1 目的 部落差別解消推進法を踏まえ、差別の解消に向けて、同和教育をはじめとする人権教育の現状と課題及び取組みについて認識を深め、児童生徒が人権問題を自らの課題とし、解決に向けた行動につなげるための人権学習(同和問題)の在り方について学び、具体的な取組みについて考える。
- 2 対象 小・中学校、義務教育学校の教職員 各市町村2名以上

3 日時等

回	日時	主題等	講師等
1	5月23日(金) 14:00~17:00	大阪府における人権教育の現状と課題 生成AIと人権のいま —これからの同和教育に求められるもの— 〔講義〕	大阪府教育庁 指導主事等 近畿大学 主任教授 北口 末広
2	6月11日(水) 14:00~17:00	同和問題に関する人権学習の具体的な展開	
		分科会1 キャリア(仕事・労働・進路) 〔講義・実践発表・演習〕	大阪府教育センター 指導主事等 府内小・中学校教職員
		分科会2 歴史 〔講義・実践発表・演習〕	大阪府教育センター 指導主事等 府内小・中学校教職員
		分科会3 現代的な差別と偏見 〔講義・演習〕	Facilitator's LABO(えふらぼ) 栗本 敦子 大阪府教育センター 指導主事等

- 4 会場 大阪府教育センター(大阪市住吉区苅田4丁目13番23号 電話06-6692-1882)

Osaka Metro 御堂筋線「あびこ」駅下車、東北東へ約700m
JR阪和線「我孫子町」駅下車、東へ約1,400m
近鉄南大阪線「矢田」駅下車、西南西へ約1,700m

- 5 その他 (1) 受付は30分前から。
(2) 来所時には、所属名・名前が入った名札を着用すること。
(3) 大阪府教育センターに、自家用自動車・バイク等の駐車はできません。
(4) Plantで受講申込みをする際、第2回の希望分科会の研修ページから申し込むこと。
(5) (受講決定後~当日) Plantで、事前連絡や課題等がないか確認すること。

- 6 担当室 人権教育研究室

個別募集

令和7年度 小・中学校人権教育研修A シラバス (人権教育総論、同和教育、指導方法等)

1 目的

部落差別解消推進法を踏まえ、差別の解消に向けて、同和教育をはじめとする人権教育の現状と課題及び取り組みについて認識を深め、児童生徒が人権問題を自らの課題とし、解決に向けた行動につなげるための人権学習（同和問題）の在り方について学び、具体的な取り組みについて考える。

2 大阪府教員等育成指標の対象項目

OSAKA 教職 スタンダード	共通の指標														
	I			II			III			IV			V		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
第4期															
第3期															
第2期	○								○				○		○
第1期															
第0期															

3 研修の主題とねらい等

回	主題	ねらい	内容	準備物・事前課題
1	大阪府における人権教育の現状と課題	大阪府内の子どもたちの現状をふまえ、人権教育推進上の重点課題について理解する。	講義を通して、人権教育の現状や課題及び、推進に向けた国及び大阪府の施策について学ぶ。	事前課題 「教職員人権研修ハンドブック」Q28 を読んでおく。
	生成A I と人権のいま	生成A I が現代社会に与える影響について認識を深め、部落差別をはじめとする人権課題を自分の問題と捉え、解決しようとする力を育む同和教育の在り方について理解を深める。	講義を通して、生成A I の利活用等、情報化の進展が部落差別をはじめとする人権課題の現状に与える影響を理解し、これからの同和教育の方針や各校で取り組むべき内容について考える。	
2	分科会1 キャリア（仕事・労働・進路）に関わる人権学習	<ul style="list-style-type: none"> 部落差別をはじめとする人権課題を自らの課題とし、解決しようとする力を育むため、各テーマで同和問題に関する人権学習に取り組む上で大切な観点について理解する。 研修を通して理解した必要な観点をもとに自校の現状を振り返り、今後の具体的な取り組みについて見通しを持つ。 	講義、実践発表、演習を通して、キャリア（仕事・労働・進路）をテーマとした同和問題に関する人権学習の取り組みをどう進めるかについて考える。	
	分科会2 歴史に関わる人権学習		講義、実践発表、演習を通して、歴史学習において、同和問題に関する人権学習の取り組みをどう進めるかについて考える。	
	分科会3 現代的な差別と偏見に関わる人権学習		講義、演習を通して、現代的な部落差別（ネット上の差別・偏見やマイクロアグレッション等）について認識を深め、それらをテーマとした人権学習の取り組みをどう進めるかについて考える。	